

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

令和3年

武道振興大会決議文手交 武道議員連盟総会



左から繁本護議員、高村正大武道議員連盟事務局次長、山谷えり子副会長、江渡聡徳会長、高村正彦日本武道館会長、丹羽秀樹文部科学副大臣、臼井日出男日本武道館理事長、逢沢一郎武道議員連盟副会長、有村治子理事

令和3年武道振興大会決議文手交・武道議員連盟総会

武道界が一丸となり活動再開を目指して 文部科学副大臣に決議文を手交

令和3年の武道議員連盟総会が3月3日、所属する国会議員55名（代理出席を含む）をはじめ、スポーツ庁・日本武道館幹部などが出席し、東京都千代田区の衆議院第一議員会館で開催された。総会終了後、山谷えり子武道議員連盟副会長・日本武道館常任理事が武道議員連盟、日本武道協議会、日本武道館3者連名の武道振興大会決議文を全文読み上げ、丹羽秀樹文部科学副大臣に手渡した。

令和2年度、新型コロナウイルス禍によって武道界は多くの活動の場を失った。その状況下でも、令和3年度は柔道、空手道を含めた東京オリンピック・パラリンピックが開催されるほか、全国の中学校において武道全9種目が並列明記された新学習指導要領に基づく武道授業が完全実施される。手交した決議文を引き金にコロナ禍の困難を乗り越え、武道界は一丸となって再び歩み出す。



山谷えり子武道議員連盟副会長（左）と丹羽秀樹文部科学副大臣

決 議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。十年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命・伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。誠に、ご同慶の至りである。このような中、昨年来、コロナ禍が世界に拡がり「交流」が必要な武道界の活動に大きな制限を与えている。各連盟・団体においても稽古や交流の自粛が求められ、大会や審査会・講習会等が相次いで延期・中止となった。しかし、この難局を乗り越えようと、武道界一丸となって、活動再開に向けて努力を続けている。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としていく我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要請する。

記

一 中学校武道必修化に関し、新学習指導要領に並列明記された武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロックで継続して行うこと。そのために必要な措置を講ずること。

二 本年に延期となった東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、実施種目の柔道、空手道への支援・助成を強力に推進すること。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、国内外における武道の国際大会や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進するとともに、海外日本人学校における武道必修化の内容充実に向け、必要な支援、助成を行うこと。

三 中学校武道必修化が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。

特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間数を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、伝統流派の活動の成果を認め、文化財保護法に、我が国が世界に誇る「古武道」の名称を明記し、全国各地の古武道の文化財指定が推進されるよう文化庁長官表彰の授与など所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の町道場については、維持存続のため、相続税、固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

令和三年三月三日

例年、決議文は総会と同日開催される武道振興大会で文部科学大臣に手渡されるが、コロナ禍によって同大会が中止となったため、総会後に手渡した。

決議では、前文にコロナ禍によって大会や審査会・講習会が相次いで延期・中止となっているが、武道界が一丸となって活動再開に向けて努力を続けていることを明記。項目には▼中学校武道必修化に関し、新学習指導要領に並列明記された武道全九種目が実施されるよう複数種目実施のモデル事業を継続して行うこと▼本年に延期となったオリンピック・パラリンピックの成功に向け、柔道、空手道への支援・助成を推進すること▼武道の国際的普及のため国内外における武道の国際大会などを一層推進すること▼古武道の文化財指定が推進されるよう文化庁長官表彰の授与など所要の措置を講ずること――などを新たに盛り込んだ7項目を要望した。決議文は1月29日に日本武道館、2月16日に武道議員連盟、同18日に日本武道協議会の役員会でそれぞれ承認された。



丹羽秀樹文部科学副大臣



高村正彦日本武道館会長



江渡聡徳武道議員連盟会長



総会はコロナ対策を講じて開催された



江渡会長（左）から高村会長へ目録が贈呈された

総会は、高村正大事務局次長の司会で、はじめに江渡聡徳会長より「昨年はコロナ禍によって多くの武道関係者が大会や講習会に参加できずに大変辛い状況でした。それでも各学校、各道場の先生方が知恵を絞って子どもたちや競技者の技能向上のため汗を流しました。また、皆さまのご尽力によって中学校で武道が必修化され、武道の複数種目実施も実現し、徐々に成果が実ってまいりました。今後はすべての中学校において複数種目の武道を実施できるようにご協力をいただければと思います」との挨拶があった。

次に高村正彦日本武道館会長・武道議員連盟名誉顧問が、武道の振興に尽力している武道議員連盟に対して謝辞を述べた。

また、丹羽秀樹文部科学副大臣が「ご承知のとおり、武道は心技体一体となつて心身の鍛錬につながっていく人間形成の道であります。文部科学省としても、各関係者の皆様のご協力をいただきながら、学校教育の場において武道指導の充実や国際的な普及をはかっていきます」と挨拶を行った。

続いて、高村次長より江渡会長に一任した武道議員連盟人事について、逢沢一郎理事と森英介理事が副会長に、遠藤敬氏と古川元久氏が理事に就いたとの説明があった。

令和2年の会計報告を行った後、江渡会長から2年連続で武道振興大会が中止となったため、計上した当該予算を武道の振興・普及のため日本武道館に寄付したいとの提案があり、全会一致で承認され、江渡会長から高村会長に目録が贈呈された。

続いて、文部科学省スポーツ庁の藤江陽子次長から武道振興施策について説明があった。

「今年度はコロナの影響で、武道をはじめスポーツに関わる多くの皆様にとって大変苦しい年だったと存じております。スポーツ庁は皆様が安心してそれぞれの活動に取り組めるように必要な支援を行ってまいります。本日は2点お話しさせていただきます。一つ目は『武道等指導充実・資質向上支援事業』です。この事業では、昨年度より全国の中学校で武道推進モデル校を指定して体育の授業で多様な武道を実施いただいております。本年度は92校のモデル



武道振興施策について説明するスポーツ庁の藤江陽子次長



高村正大事務局次長

校で多様な武道を実践していただきました。この中で各武道団体には外部指導者の派遣や、安全に配慮した授業の実施にご協力いただいております。武道全9種目とも地域の指導者などによる専門的な指導をいただきながら楽しく実践できたということです。令和3年度もこの事業を引き続き推進するとともに、学校における武道指導の充実をはかるため、この実践成果を全国に発信し、多くの子どもたちが多様な武道に親しめるよう努めてまいりたいと思います。

二つ目は武道ツーリズムを重点項目においた『スポーツによる地域の価値向上プロジェクト』です。令和2年度に武道ツーリズムに関するモデル事業を新規に立ち上げました。令和3年度にはさらにモデル地域を増やして実施する予定です。昨年はコロナ禍でインバウンドの需要が期待できなかったものの、今後の武道ツーリズムを円滑に推進するため国内体制を整備しようと日本スポーツツーリズム推進機構のなかに武道ツーリズム推進部会を設置しました。同推進機構などと連携を取り、日本武道館など関係団体のご協力をいた

だきながら事業者等のネットワークを構築・強化していきたいと考えております。武道ツーリズムの取り組みを国内外に広く発信することによって武道のプレゼンスの向上、地域や経済の活性化をはかっていきたいと思います。

次に、日本武道館の吉川英夫理事・事務局長から武道の現場報告があった。

「日本武道協議会の加盟団体による全日本大会は柔道、相撲、空手道が規模を縮小して開催しました。剣道も同様にして開催予定です。日本武道館の主な事業のうち、『青少年武道錬成大会』『武道指導者講習会』『学校武道必修化関連事業』のほとんどが中止を余儀なくされました。ただし、スポーツ庁の『外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業』は27の都道府県・指定都市の92校で実施されました。また、古武道保存事業、武道国際交流事業では、『日本古武道演武大会』『海外派遣事業』『国際武道文化セミナー』がいずれも中止となりました。その中でも面白い話題として令和2年度文化庁長官表彰に天真正伝香取神道流剣

術（千葉県香取市）が古武道流派として初めて表彰されました。振興大会の決議文に『古武道の振興と文化財指定』が謳われていますが、その第一歩となりました。武議連の先生方のご尽力に感謝いたします。

令和3年度の主な事業として、①東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催協力および『武道演武』の実施、②『第4回外国人留学生対象国際武道文化セミナー』の実施、③武道ツーリズムへの協力——を予定しております」

質疑応答に移った。発言者と質問・要望内容は以下の通り。

◎赤池誠章議員

「複数種目のモデル事業は拡大していかねばならないと思う。予算の範囲内でどのように拡充していくのか。また、古武道の文化財指定に関して、古武道の学術的な調査・研究がどの程度進んでいるのか」

◎宮澤博行議員

「古武道の文化財指定は今後どのくらい見込まれるのか。その条件はどのようなものなのか」

◎高島修一議員

「武道ツーリズムについて、受け入



阿達雅志議員



高鳥修一議員



宮澤博行議員



赤池誠章議員

れ先の確保はどのようなになっているのでしょうか。また、その仕組みを教えてください」

◎阿達雅志議員

「スポーツ活動継続サポート事業の補助金交付制度について、武道関係者には周知されていないようです。武道関係者に対する交付件数が少ない原因を教えてください」

これに対し、スポーツ庁の藤江次長より「モデル事業については予算を効率的に使いながら増やしていくように努めてまいります。古武道については、日本武道館に古武道保存事業を実施いただいております。スポーツ庁としても関係団体と連携をとりながら進めてまいりたいと思います。武道ツーリズムのモデル事業として九州ではサムライツーリズムを、沖縄では空手ツーリズムを展開しています。補助金の交付制度については、武道関係者に周知をしているところでもあります。交付件数が少ないのはスポーツ活動を再開できなかったなどの理由が挙げられます」との説明があった。

最後に司会の高村次長が閉会を宣言して会は終了した。

武道議員連盟役員名簿 (敬称略)

名 誉 顧 問	高村 正彦 (前自民党副総裁)	白井日出男 (元衆議院議員)	
顧 問	大島 理森 (自民)	衛藤征士郎 (自民)	中曽根弘文 (自民)
	赤松 広隆 (立憲)	海江田万里 (立憲)	
会 長	江渡 聡徳 (自民)		
副 会 長	逢沢 一郎 (自民)	河村 建夫 (自民)	塩谷 立 (自民)
	下村 博文 (自民)	高木 陽介 (公明)	森 英介 (自民)
	山谷えり子 (自民)		
理 事 長	高木 陽介 (公明)		
理 事	有村 治子 (自民)	江田 康幸 (公明)	遠藤 敬 (維新)
	丹羽 秀樹 (自民)	福岡 資麿 (自民)	古川 元久 (国民)
事 務 局 長	丹羽 秀樹 (自民)		
事務局次長	高村 正大 (自民)		

令和3年3月3日現在

令和元年度・2年度 日本武道協議会・日本武道館 活動報告（概要）

令和3年3月3日

1. 日本武道協議会加盟団体の令和2年度主要全日本大会開催状況

- 柔 道 令和2年全日本柔道選手権大会（4月⇒延期 12月26日、講道館、無観客）
第35回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月⇒延期 12月27日、講道館、無観客）
- 剣 道 第68回全日本剣道選手権大会（11月⇒延期 3月14日予定、長野県・ホワイトリング）
第59回全日本女子剣道選手権大会（9月⇒延期 3月14日予定、長野県・ホワイトリング）
- 弓 道 天皇盃第71回全日本男子弓道選手権大会（9月20～22日⇒中止）
皇后盃第53回全日本女子弓道選手権大会（9月18～20日⇒中止）
- 相 撲 第69回全日本相撲選手権大会（12月6日、両国・国技館、観客入場制限）
第25回全日本女子相撲選手権大会（10月4日⇒中止）
- 空 手 道 天皇盃・皇后盃第48回全日本空手道選手権大会
（12月13日、日本武道館、観客入場制限、初日12日「都道府県対抗組手団体戦」中止）
- 合 気 道 第58回全日本合気道演武大会（5月16日⇒中止）
- 少林寺拳法 2020年少林寺拳法全国大会 in おおさか（10月24、25日⇒中止）
- なぎなた 皇后盃第65回全日本なぎなた選手権大会（12月6日⇒中止）
第20回全日本男子なぎなた選手権大会（12月5日⇒中止）
- 銃 剣 道 高松宮記念杯争奪第28回全日本銃剣道選手権大会（8月20日⇒中止）

2. 主な事業

（1）青少年武道錬成大会（国庫補助対象事業）

令和元年度	令和2年度
①中央錬成 8種目延べ9日間 16,593名参加 ②地方錬成 9種目59カ所 4,779名参加	①中央錬成 東京五輪開催（延期）のため実施せず ②地方錬成 2種目3カ所 263名参加 ⇒《コロナ禍で49カ所中止》

（2）武道指導者講習会（国庫補助対象事業）

令和元年度	令和2年度
①全国武道指導者研修会 9種目14回 1,042名参加 ②地域社会武道指導者研修会 84カ所 5,507名参加	①全国武道指導者研修会 ⇒《コロナ禍で全て中止》 ②地域社会武道指導者研修会 4カ所 88名参加 ⇒《コロナ禍で86カ所中止》

（3）中学校武道必修化関連事業

令和元年度	令和2年度
①中学校武道授業指導法研究事業 9種目10回 ②日本武道協議会設立40周年記念『中学校武道必修化指導書・DVD付』（平成29年5月刊行）無償配付	①中学校武道授業指導法研究事業 4種目4回予定 ⇒《コロナ禍で5種目中止》 ②日本武道協議会設立40周年記念『中学校武道必修化指導書・DVD付』（平成29年5月刊行）無償配付

※スポーツ庁「外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業」

令和元年度	令和2年度
・委託先：31都道府県・指定都市教育委員会 ・武道推進モデル校指定：99校 ・種目内訳：柔道53校、剣道31校、相撲5校、 弓道13校、空手道32校、合気道12校、 少林寺拳法15校、なぎなた21校、銃剣道5校	・委託先：27都道府県・指定都市教育委員会 ・武道推進モデル校指定：93校 ・種目内訳：柔道47校、剣道34校、相撲3校、 弓道9校、空手道35校、合気道9校、 少林寺拳法12校、なぎなた24校、銃剣道3校

●日本武道協議会・日本武道館 資料

3. 古武道保存事業

令和元年度	令和2年度
①第43回日本古武道演武大会（国庫補助対象事業） 令和2年2月2日・東京武道館 35流派出場、観客約2,000名 ②第10回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会 10月5、6日 37流派参加、観客約1,700名	①第44回日本古武道演武大会（国庫補助対象事業） 令和3年2月7日・日本武道館・35流派出場予定 ⇒《コロナ禍で中止》 ②第11回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会 10月3、4日 35流派参加予定⇒《コロナ禍で中止》
	③令和2年度文化庁長官表彰 天真正伝香取神道流剣術（千葉県香取市）が古武道流派として初めての受賞。 令和2年12月17日、都内会場で表彰式が挙行され、宮田亮平文化庁長官から飯篠快貞第二十代宗家に表彰状が授与。

4. 武道国際交流事業（国庫補助対象事業）

令和元年度	令和2年度
①オーストリア共和国派遣日本武道代表团 期 間：11月6日～13日（8日間） 派遣国：オーストリア共和国ウィーン 団 員：高村正彦団長はじめ派遣団員75名 ○ウィーン日本人国際学校「武道交流演武会」 ○武道セミナー、現地交流稽古会 ○武道演武大会（観客約3,950名参加） ②第2回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー 令和2年3月6～8日・日本武道館研修センター 参加者：35カ国・地域、93名参加申込 ⇒《コロナ禍で直前に中止》	①英国派遣日本武道代表团 期 間：11月4日～11日（8日間） 派遣国：英国ロンドン 団 員：派遣団員75名予定 ⇒《コロナ禍で中止》 ②第3回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー 令和3年3月5～7日・日本武道館研修センター 参加者：80名参加予定 ⇒《コロナ禍で中止》

5. 令和3年度の主な事業

- (1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催協力及び「武道演武」
 - ①本年に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催協力
 - ②オリンピック柔道・空手競技中のインターバル等を利用して「武道演武」実施
- (2) 第4回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー（国庫補助対象事業）
 令和4年3月4日～6日 80名参加（予定）
- (3) 武道ツーリズムへの協力
 月刊「武道」誌上で「武道ツーリズムの輪を拓けよう」を連載
 （令和元年10月号～令和3年4月号予定）

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の国内外における感染拡大に伴い、待望の2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が1年間延期となったことをはじめ、「交流」が必要な武道界においても稽古や交流の自粛が求められ、大会や審査会・講習会等が相次いで延期・中止という未曾有の事態となりました。しかし、日本武道協議会加盟の武道10団体はこの難局を乗り越えようと、武道界一丸となって、活動再開に向けて努力を続けています。

令和3年は、延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるとともに、中学校において新学習指導要領が完全実施となります。つきましては、青少年の健全育成を主眼とする中学校武道必修化を成功させるとともに、我が国固有の伝統文化である武道の更なる振興発展が図られるよう、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

武道等指導充実・資質向上支援事業

令和3年度予算額(案) : 195,526千円
(前年度予算額 : 195,526千円)



背景

学習指導要領のねらいの実現や子供の運動・スポーツに対する意欲や関心の向上のためには、全国的に質の高い授業の実践、教員等の指導力向上が必要である。その中で、武道の種目は、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道を示し、我が国固有の伝統文化により一層触れることとしており、保健体育授業における武道等の指導の一層の充実が求められる。

事業概要

我が国固有の伝統文化である武道等の指導の充実を図るため、中学校の保健体育における多様な武道種目の実施や外部指導者の活用などの実践研究を行うとともに、武道関係団体による多様な武道指導実践への支援体制の強化を図る取組を行う。

テーマ1

多様な武道等指導の充実

都道府県・指定都市教育委員会に委託
(4,600千円×30団体 ※1団体4校程度)

多様な武道種目に触れる保健体育の授業や外部指導者の活用などを行う中学校を「武道推進モデル校」に指定した実践研究を行うとともに、多様な武道種目の指導法講習会など教員の指導力向上を図る取組等の実施

【武道推進モデル校】



普及 啓発

【武道推進モデル校】



普及 啓発

【武道推進モデル校】



普及 啓発

【武道推進モデル校】



普及 啓発

テーマ2

支援体制の強化

法人格を有する団体に委託
(8,600千円×5～6団体程度)

武道関係団体による外部指導者の養成や指導ガイドブック等の資料の作成指導力向上など、中学校における多様な武道種目の実践の支援体制を強化するための取組等の実施

テーマ3

指導成果の検証

大学に委託
(4,500千円×3団体)

大学、教育委員会、学校の連携・協力による中学校における多様な実践の成果と課題の調査・検証を行う取組等の実施

武道推進モデル校 実践事例



柔道(徳島県鳴門市立大麻中学校)



剣道(和歌山県有田川市立金屋中学校)



弓道(山形県米沢市立第一中学校)



相撲(石川県能登町立能都中学校)



空手道(群馬県渋川市立北橋中学校)



合気道(新潟県上越市立浦川原中学校)



少林寺拳法(石川県小松市立板津中学校)



なぎなた(兵庫県明石市立衣川中学校)



銃剣道(富山県南砺市立井口中学校)

令和3年度武道関係予算（案）

1. 武道指導の充実

（1）指導内容の充実

○武道等指導充実・資質向上支援事業 196百万円

我が国固有の伝統文化である武道等の指導の充実を図るため、中学校の保健体育における多様な武道種目の実施や外部指導者の活用などの実践研究を行うとともに、武道関係団体による多様な武道指導実践への支援体制の強化を図る取組を行う。

○武道講習会の開催等 25百万円

武道関係団体との共催により、体育担当教師や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る指導者を養成するための武道講習会を開催する。

○地域運動部活動推進事業【新規】 200百万円

生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現に向けて、全国各地域において実践研究を実施する。具体的には、拠点校（地域）において、生徒への指導を担う地域人材の確保、費用負担の在り方の整理、地域部活動の運営団体の確保等に取り組むとともに、合同部活動やICT活用の推進を図る。

○学校における体育活動での事故防止対策推進事業 18百万円

体育活動中の重大事故事例や情報、再発防止のために留意すべき点、事故防止方策等について分析を行うとともに、体育活動中における安全管理・事故防止について全国的な普及啓発を行う。

（2）武道場の整備 4,582百万円

中学校における保健体育科の「武道」を安全かつ円滑に実施するため、公立中学校武道場新改築事業等に対する国庫補助を行い、整備促進を図る。

・公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金） 4,502百万円

・私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金） 80百万円

（3）武道関係教材等の充実

令和2年度から、10カ年にわたる「義務教育諸学校における教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置を行う。

2. 武道団体への支援等

○日本武道館補助 62百万円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対する国庫補助を行い、我が国の武道の普及・振興を図る。

○スポーツによる地域の価値向上プロジェクト【拡充】 281百万円

スポーツと地域資源を融合させたスポーツツーリズム等を通じて交流人口の拡大及び地域・経済の活性化を図るため、地域単位では、ポストコロナを見据えた高付加価値コンテンツの創出に向けたモデル的な取組等を実施し、全国単位では、ネットワーク構築・強化、新たな戦略検討、プロモーション等を実施する。

○スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業【拡充】 165百万円

地方自治体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツと地域資源を掛け合わせたまちづくり・地域活性化に取り組む組織である「地域スポーツコミッション」の設立から自走化までの流れを支援するとともに、コロナ禍における活動再開や新たな事業計画の策定等を支援し、スポーツによる地域活性化を推進する。

○スポーツスペース・ボーダレスプロジェクト【拡充】 60百万円

持続可能な地域スポーツ環境を確保・充実し、生活の中に自然とスポーツが取り込まれているスポーツ・イン・ライフの実現を支えるため、スポーツ施設の個別施設計画策定を通じた集約・複合化等、学校体育施設の有効活用、民間スポーツ施設の公共的活用の取組を推進する。

○日本スポーツ振興センターによる助成	令和元年度実績額	22.3億円
	令和2年度配分額	13.4億円

競技力向上事業助成やスポーツ振興基金助成、スポーツ振興くじ助成等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室の開催等の事業などに支援。

好評発売中

脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

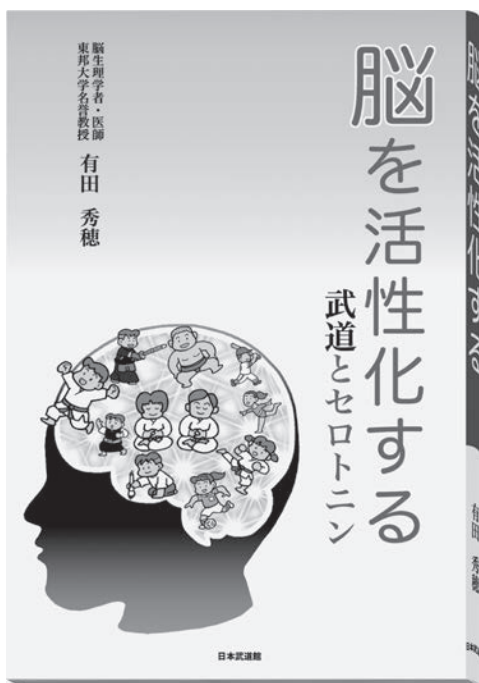
脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。

脳を活性化する

武道とセロトニン



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

武道の全容をこの一冊に集大成！

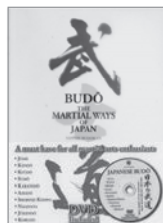


日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



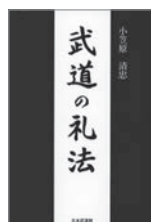
BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもを育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

令和2年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業

オンラインを使用した研究事業を初実施



オンライン画面を通して発表、討論を重ねた参加者たち

令和2年度の中学校武道授業（柔道）指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館・全日本柔道連盟・日本武道協議会）が2月20・27日と3月6日の計3日間にわたり、研究者12名が参加して実施された。

本年度は、新型コロナウイルスの感染対策としてオンライン会議システム「ZOOM」（ズーム）を使用し、初のリモート形式での研究事業となった。研究者は端末の画面を通して、第1学年次の指導計画例の発表や他の研究者による評価、質疑応答などを行い、指導法の研究協議を重ねた。



本事業では平成24年度から完全実施となった中学校武道必修化の充実に向け、武道全9種目で研究事業を実施している。完全実施となった新学習指導要領に準拠して、年間8～10時間の授業時間を想定し、各武道の特性をふまえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の高い指導法を研究している。

今回は柔道授業の指導法研究事業の内容を紹介する。

■1日目（2月20日）

はじめに開講式が行われ、中里壮也全日本柔道連盟事務理事が「コロナ禍において当連盟もどのようにしたら授業を実施できるか模索しています。十分な安全対策を行い、また今回のウェブ会議で成果を得てより良い柔道授業の実践を期待しています」と主催者挨拶を行った。

続いて同じく主催者代表として、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「武道必修化が始まり9年目となりました。安全で楽しい授業を実施できるように、また、武道を経験した子どもたちが実生活の中で間接的にでも授業で学んだことを活用できるように願っています」と述べた。

次に、自己紹介が行われた後、田中裕之研究者より、「10月に開催予定の『第12回全国中学校（教科）柔道指導者研修会』は、保健体育の先生方がどのように柔道授業の指導をしたらよいかを研究・開発する場でもあります。今回の研究事業で多くの検討を重ね、全国研修会につなげていけるよう、充実したものにしていきたいと考えています」と本事業の趣旨を述べた。

研究者一覧 (※敬称略)

1	高橋 進	大東文化大学 スポーツ・健康科学部	教授
2	高橋健司	練馬区立貫井中学校	主幹教諭
3	田中裕之	全日本柔道連盟	参事
4	木村昌彦	横浜国立大学教育学部	教授
5	向井幹博	講道館道場指導部	次長
6	水沢 忍	秋田県秋田市立山王中学校	教諭
7	前瀧大吾	東京都墨田区立桜堤中学校	主幹教諭
8	高品亮輔	千葉県勝浦市立勝浦中学校	教諭
9	三原史也	和歌山県美浜町立松洋中学校	教諭
10	濱岡睦月	島根県江津市立江津中学校	教諭
11	山根友樹	山口県長門市立深川中学校	教諭
12	長濱佳代子	長崎県長崎市立小島中学校	教諭



資料を画面で共有しながら事業が進められた

このあと、各研究者の指導計画例の発表が行われた。指導計画例は事前に各研究者が三つのパターンの中から選択して作成した。各パターンは以下の通りである。

▼Aパターン……「投げ技」と「固め技」を中心とした指導計画（主な学習内容Ⅱ膝車、大腰、体落とし、袈裟固め等）
▼Bパターン……「投げ技」を中心とした指導計画（主な学習内容Ⅱ

膝車、大腰、体落とし、技の連絡、技の変化等）

▼Cパターン……「固め技」を中心とした指導計画（主な学習内容Ⅱ抑え技全般、技の連絡、技の変化等、攻撃・防御の工夫等）

1日目の研究者の発表内容の要点は次の通り。

○水沢忍研究者（パターンA）
・10時間で柔道のイメージが変わる（痛い」「怖い」などの認識から「楽しい」「おもしろい」という認識に変化する）ことを伝える。

・柔道の予備動作を教え、本格的な技の練習に入る前に柔道の危険性をしっかりと伝え、生徒が教員の話に耳を傾けるようにする。
・技の学習を行う際は必ず3人1組となり、ローテーション（2人が実践し、1人はその様子を確認・アドバイスする）で練習する。

○前瀧大吾研究者（パターンC）

・生徒が楽しいと思えるような雰囲気作りを大切にする。
・2～5限目は基本動作と受け身を行い、相対的な練習や予備動作をしっかりと確認する。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	指導と評価の計画（単元構造図）								
学習の流れ	オリエンテーション	礼法・準備運動・補強運動・伝統的な行動の仕方・基本動作・基本動作を使ったゲーム・受け身・学習内容（めあて）の確認																		
	学習の進め方	◎基本動作 柔道動作・姿勢と組み方 の崩しと修正 ※八方・柔道ダンス ◎受け身（後ろ・横・前・横転・前回り） ◎安全について（ブルーベニング）				◎立技 ◎膝車 ◎抑え技 ◎抑え込みの発見		○体落とし ○動画撮影会 ○大腰 ○動画撮影会		◎寝技 既習の技を使った自由練習										
	柔道衣の取扱																			
	礼法																			
指導内容	後受受け身	整理運動・本時の振り回し・次時の連絡・礼法										評価標準								
	1 技能	基本的な技を使って攻防する																		
	2 態度	柔道に積極的に取り組むとともに、仲間と協力して行う																		
	3 知識・思考・判断	柔道の特性や成り立ち、技の名称、行い方を理解し、ねらいに応じた工夫ができる																		
評価内容	評価項目	①			②	③		④	③		②	主眼点による評価部分								
	技能		①	②		①			③	④										
	知識			②		①														
	態度																			

発表資料：指導計画例（パターン A）

・ 11、12 限目には今までのまとめとして簡易試合・技能テストを行う。

○高品亮輔研究者（パターン A）

・ 柔道授業は生徒指導面を大切にす

る。

・ 限られた時間を効率良く使うため、評価のための学習カードなどは書かせず評価は授業観察で行う。

・ 投げ技の練習の際には擬音語を使ったり分かりやすい声掛けを行うなど、生徒が動作を覚えやすいように工夫している。

発表が終わるたびに各研究者による質疑応答・内容検討が行われた。最後に、高橋進研究者が、「今日の発表は柔道を専門としない先生方にとってためになる具体的な指導案だったと思います。また、柔道に興味を持ってほしいという教師側の思いを生徒に伝えるには、学習目標をはっきりと伝える必要があります。なぜなら、生徒が十分に学習できたという満足感が『楽しさ』に繋がるからです。柔道授業をどのよう

切になると思います」と述べ、1 日を締めくくった。

■2 日目（2 月 27 日）

4 人の研究者の発表が行われた。

○三原史也研究者（パターン A）

・ 固め技、投げ技、立ち技は一通りできるように計画を立てる。

・ 事故防止のため、本格的に技の学習に入る前に「ケガ」や「活動場所の安全」について考えさせ、グループで共有する。

・ 「引き手」や「釣り手」のような専門用語は分かりやすく別の用語に言い換える。

・ 客観的に自分の技が見られるように授業内で動画の撮影会を実施する。

○濱岡睦月研究者（パターン A）

・ 2、3 限目はペアで基本的な受け身の練習を実施。4 限目からは 3 人一組で演習を行い、1 人がアドバイスをできるようにする。

・ 動画撮影を生徒だけでなく教員も行い、良かった事例は生徒に見せる。

・審判の所作や「まいった」などを教え、柔道の本質を伝えている。

○山根友樹研究者（パターンC）

・4限目で行う押し相撲は勝敗を競うのではなく、負けの大切さを伝える。

・7限目の固め技から逃げる方法の指導ではジグソー法（4人一組となり、一つの課題を各自が勉強し、その結果を持ち寄って互いに紹介し合い、協力して全体像を浮かび上がらせる手法）を使って、ポイントを確かめ合う。

○長濱佳代子研究者（パターンA）

・早くから自由練習を取り入れ、生徒に考えさせる授業を展開する。
・立ち技を教える際に一つ一つの動作に説明を加えて指導する。

各研究者の発表後には1日目と同様、質疑応答や内容検討が行われた。

■最終日（3月6日）

最終日は、1日目と2日目の発表を受け、さらに内容を掘り下げたため、事前に高橋健司研究者より提出

された協議課題について、各研究者が意見を述べた。

●課題（1年生に教えることを前提とする）

①以下の柔道専門用語や内容の解説を「どの段階」で「どのように」指導、説明するか。（柔道衣の名称、礼法、受け身、姿勢、組み方、進退動作、崩し、体さばき、引き手、釣り手、取り、受け、間合い、理合い）

②「投げ技」と「固め技」の指導順序とそれぞれの指導の割合はどの程度が妥当か。

③単独練習から相対練習へと発展させるときの効果的な指導例について。

④グループ（2人組、3人組、4人組以上）で行う指導の長所と短所。

⑤新学習指導要領の評価方法について、3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の内容をどの場面ととらえるか

▼課題①について

「柔道の専門用語については場面ごとに何を伝えていくのかを考えて教

えていくことが大切です。例えば姿勢や体勢については最初に指導した方が後々の授業がスムーズに進行します。また、引き手や釣り手など、

動作が必要な場合は最初に用語を説明するのではなく、どのような動きをしているか実際に動きながら生徒に問いかけることによって用語が覚えやすくなります」

（高橋健司研究者）

▼課題②について

「運動能力を獲得するには寝技から学習する方が理にかなっているため、1年生のうちは固め技に重きを置いて学習が良いと考えます」

（高橋進研究者）

▼課題③について

「相対的な動きは、相手と協力しながら2人で考えて行う際に有効であると思います」（木村昌彦研究者）

▼課題④について

「グループ学習は生徒が能動的に動けるため、授業内容が記憶に残ることが期待できます。しかし、学習目標が的確でないと生徒が楽をしよう

とする場合もあります。このため、教員がグループ学習で何を目標にするのかを明確にし、どのように伝えるかが大切です」（高橋進研究者）

▼課題⑤について

「評価基準の設定は非常に難しいと思います。3観点をどのように具体化し、評価結果を子どもたちにどれだけ分かりやすく伝えるかが重要だと思います」（木村研究者）

その後、木村研究者が「これから誰でも行える柔道授業を考え、伝えていく必要があります。子どもたちが自己肯定感をどれだけ高められるか、柔道の特性をどう理解するか、そして、そのためにどのように授業を工夫するかという点を体系化させるとより良い授業になると思います。今回聞いたことや学んだことをぜひ自分のものにしてください」と総括した。



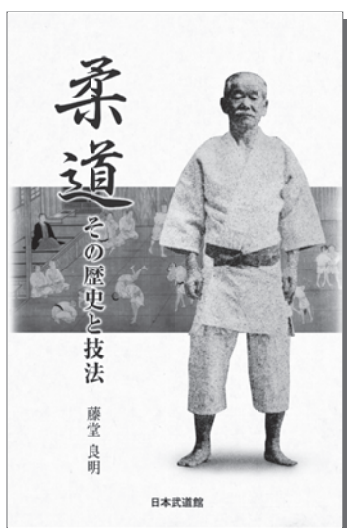
最後に閉会の言葉として中島昭博 日本武道館振興課長より挨拶があり、本研究事業は幕を閉じた。

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法	第三章 講道館柔道の歴史と技法	第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
体術の起こりと技法	講道館柔道の創設と技法	第二次大戦中の柔道界と技法
組討ちの体系化と技法	嘉納治五郎の乱取開発	第二次大戦後の柔道禁止と復活
	講道館柔道の行事と整備	格技柔道から武道柔道へ
第二章 柔術諸流派の歴史と技法	警視庁武術大会の勝利と技法	女子柔道の競技化と技法
竹内流腰廻	学校体操への柔道導入の試み	
関口新心流柔術	学校における柔道普及の実態	第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
起倒流柔術	高専柔道の起こりと技法	柔道技法の変遷と特徴
起倒流柔道	嘉納治五郎の他武道への接近	柔道の国際的普及と発展
直信流柔道	精力善用国民体育の創案と技法	段位制度の国際比較
真之神道流柔術	全日本柔道選手権大会の開催と技法	柔道の国際化と課題
天神真楊流柔術		

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

役に立つ 少年柔道指導法

DVD付き

役に立つ
少年柔道指導法

向井 幹博



少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部 解説編

- 第一章 少年柔道は柔道指導の原点
- 第二章 基本動作の指導
- 第三章 技の指導
- 第四章 教育の中の柔道
- 第五章 指導の工夫
- 第六章 少年規定の変遷と問題点
- 第七章 柔道の安全指導
- 第八章 東日本大震災への講道館の対応

第2部 実技編

- 第九章 少年柔道の未来のために
- 第一章 礼法の指導
- 第二章 受け身の指導
- 第三章 基本動作の指導
- 第四章 トレーニング法の指導
- 第五章 柔道の練習法
- 第六章 投技の指導
- 第七章 固技の指導

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円＋税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。